

2019
11

長崎県

長崎県の“土木”のいまがわかります NO. 39

DOVOC 通信 ながさき

特集
1

河川とダム事業が効果を発揮

特集
2

重要物流道路が指定されました!

特集
3

西九州自動車道建設促進大会(東京大会)を
開催しました!

長崎県の土木遺産

DOVOC インフォメーション

表紙写真/ながさきサンセットロードInstagramフォトコンテスト授賞作品

(撮影者:@take.nagasaki)

#ながさきサンセットロード #nsr2019西海市

河川とダム事業が効果を発揮

梅雨前線及び台風5号の影響により、7月17日から7月22日にかけて、五島対馬地方では記録的な大雨となり大雨特別警報が発表されました。上五島地区では、平成元年9月に発生した災害以降に実施された災害復旧事業やこれまでの河川とダム事業が効果を発揮し、床上床下浸水が0戸と被害が大幅に軽減しました。

3. 河川とダム事業の効果

○上五島地区では川の拡幅や橋の架け替えなどの河川改修、青方ダムの洪水調節により、洪水時の川の水位が低下し、浸水被害はありませんでした。

平成元年

被害

床上浸水：68戸
床下浸水：607戸

令和元年

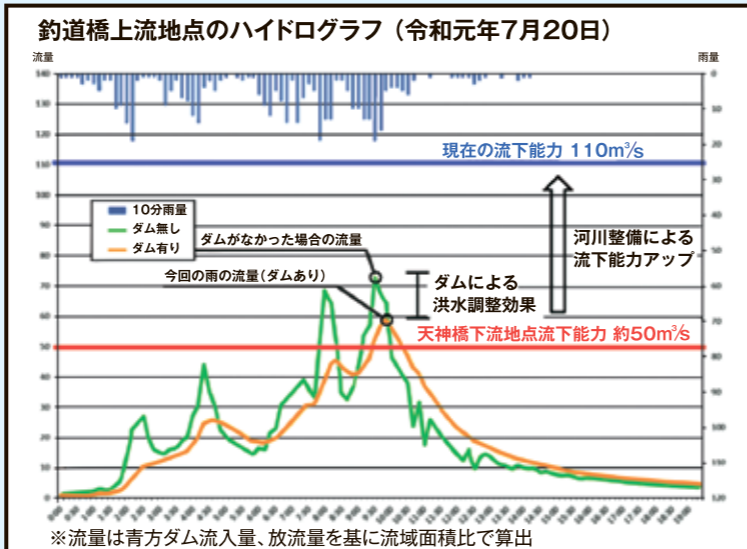
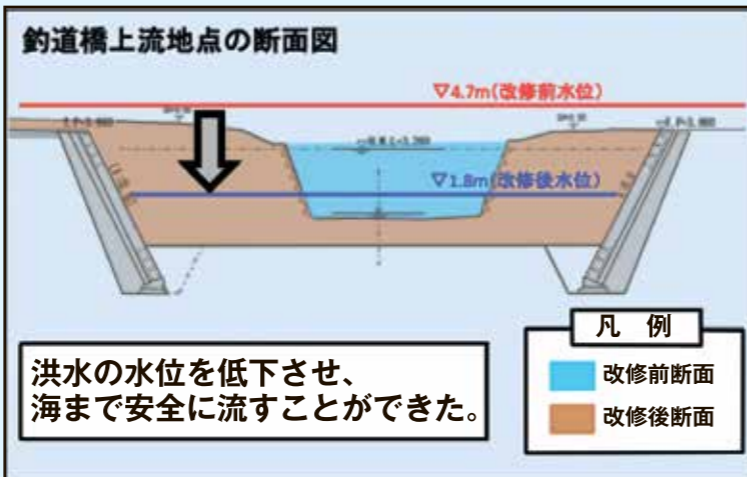
床上浸水：0戸
床下浸水：0戸

釣道川の治水対策事業



○釣道川の河川改修工事(総合流域防災事業)
平成4年度～令和4年度(計画規模1/50)
流下能力:平成元年度 約50m³/秒⇒現在 110m³/秒

※なお、昭和59年に青方ダムが完成し、平成元年災害時にも流木が捕捉されたことにより、被害軽減効果があった。

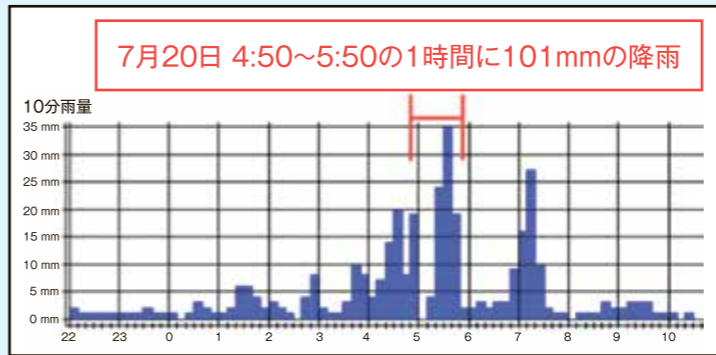


1. 降雨と警報の状況

○長崎県の五島と対馬では数十年に一度の記録的な大雨となり、7月20日に大雨特別警報が発表されました。



※1:長崎地方気象台HP http://www.jma-net.go.jp/nagasaki-c/gyomu/hodo/saigaijikyousiryou/saigai_20190722-nagasaki.pdfを加工して作成
※2:気象庁HP <https://www.jma.go.jp/jma/press/1907/20a/kaisetsu201907201100.pdf>を加工して作成



長崎県が新上五島町に設置した雨量観測所では時間雨量101mmの猛烈な雨を観測

2. 平成元年9月災害との比較

○上五島地区では、近年最も被害が大きかった平成元年9月災害時と比較すると、降雨量は同程度でしたが、家屋や公共土木施設などの被害が大幅に少なくなりました。

	平成元年 9月12日～13日	令和元年 7月17日～22日
雨量	1h最大 : 114mm 24h最大雨量 : 510mm	1h最大 : 101mm 24h最大雨量 : 447mm
被害	死者 : 4名 家屋被害(浸水) : 1,792戸 家屋被害(土砂) : 87戸 土砂災害 : 144ヶ所 公共土木施設(道路・河川) : 376箇所 箇所数 : 376箇所 被害額 : 47.7億円	死者 : 0名 家屋被害(浸水) : 2戸(※) 家屋被害(土砂) : 3戸 土砂災害 : 6ヶ所 公共土木施設(道路・河川) : 22箇所 箇所数 : 22箇所 被害額 : 7.7億円

(※)河川氾濫以外の浸水による被害

第13回

旧県道江里峠

—長崎県道路改修の近代化遺産—

所在地：北松浦郡佐々町江里免江里峠

道路は重要な土木施設であり、古い道路は歴史的史跡となる。中でも峠越には、切通や隧道など様々な技術が使われてきた。佐々町から江迎(佐世保市)に行くには、国道204号線で、佐々—吉井—江迎の松浦線に沿った道路を通る。しかし、明治の頃の旧道(現町道：小春露切橋線)は、佐々から山越えて江迎に至る、江戸時代の街道、平戸往還に沿って造られていた。この道路は明治20年(1887)から明治21年(1888)にかけて改修されている。この山越えの峠が「江里峠」である。江戸時代の街道は、徒歩中心の狭くて段差の多い道であったが、明治時代になると、荷車、馬車、人力車が通る、広くて平滑な道路に改修する必要があった。

佐々町の市街地から佐々川の支流の江里川に沿った道を進むと、道は次第に急な斜面を蛇行して上るようになる。しばらく行くと突然、道の向こうが見えない江里峠にさしかかる。峠の頂上には、江里峠の由来を書いた案内板がある。峠を越えた少し平地になったところに二つの石橋がある。近代的な道路



旧県道江里峠

路を造るために、峠の上を開削し、小川には石橋をかけて、盛土して円滑な道路にした跡を見ることができる。道幅は標準的な3間(5.4m)程度である。

峠を江迎側に下った左手の藪の中に一つの石碑が建っている。苔むした石に「山口宗助君之碑」と刻まれている。碑文には、この道路を開削中、明治20年1月14日に長崎県の職員「山口宗助」氏が病死したことを悔やみ、関係者が寄付を募り、明治20年7月に建立したと記されている。裏面に寄付者、金井俊行、朝永東九郎、依田昌吉、吉村長策、小島春次郎、中島四方三郎等が名前を連ねている。金井俊行は当時の長崎区長、朝永東九郎は西彼杵郡長、他は中島川変流工事や、長崎水道工事に携



山口宗助君之碑



江里峠下橋

わった、長崎県精鋭の土木技師達である。

「江里峠」は峠道の素晴らしい景観とともに、近代化を目指した明治技術者達の、県土の道造りにかけた情熱が伝わってくる、長崎県の土木遺産である。

第12回

日見新道切通し

—近代化を目指した長崎市の道路遺産—

所在地：長崎市本河内町・芒塚町

長崎大学名誉教授 岡林 隆敏

江戸時代、長崎街道により長崎を出入りするには、市街地東方にある日見峠の難所を通過していた。明治時代になり、政府は「道路ノ等級ヲ廢シ國道縣道里道ヲ定ム」(明治9年(1876))を制定し、東京から長崎までの路線は一等国道に認定、国道の幅は7間と規定された。一方、政府は明治4年に「治水修路架橋運輸ノ便ヲ與ス者ニ入費税金徴収ヲ許ス」を布告し、道路・橋梁を民間会社が造り、建設費を通行銭で償還することを許可していた。長崎街道の改修では、市街地の東に聳える日見峠に至る道路を造り、頂上付近で切通しを開削する必要があった。この道路改修には、当時の長崎の主要商人達が協議して、日見新道会社を立ち上げ工事に臨んだ。日見新道会社は、当時高島炭鉱社雇測量工師であったE.H.M. ガワル(Gower)に測量を依頼した。

日見新道会社は、日見峠を中心に、長崎側が1里19町(5.9872 km)、日見側が1里8町(4.79 km)を改修した。最高部で山腹を17間6分(約32m)程掘り下げ、長さ約83間(149m)、幅3間(5.4m)の切通しを開削した。日見峠切通しは、明治14年(1881)4月起工し、明治15年(1882)7月30日完成した。この会社負担の建設費は、工事区間の通行料で償還された。明治22年(1889)、県の補償金交付

により、料金徴収制度は廃止された。開通直後の日見峠切通しの写真があるが、人力車が通ることができた。長崎側から上ると、日見新道は切通しを通過した後、矢上に向けて屈曲した坂道を海岸部まで下る。

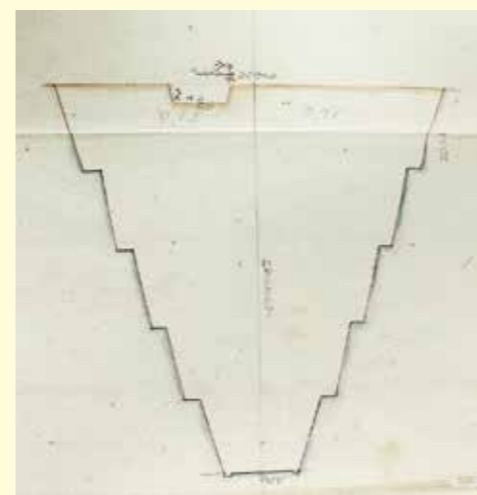
時代は大正時代になり、自動車交通に対応できなくなった日見峠切通しに代わって、峠の下に造られた日見隧道が幹線道路になった。しかし当時の日見新道は今でもほぼ全線当時の状態で残されている。日見峠切通の見上げるような切り立った両側の斜面は、困難を極めた土木工事の姿を今に伝えている。



現在の日見峠切通し



開通直後の日見峠切通し



日見峠切通しの断面図

西九州自動車道建設促進大会 (東京大会)を開催しました!

令和元年10月30日(水)に、西九州自動車道の早期の全線開通に向けて、更なる整備促進を図るため、長崎県、福岡県、佐賀県並びに3県沿線市町合同で、初の試みとなる東京での西九州自動車道建設促進大会を開催しました。



中村法道 長崎県知事



山口祥義 佐賀県知事



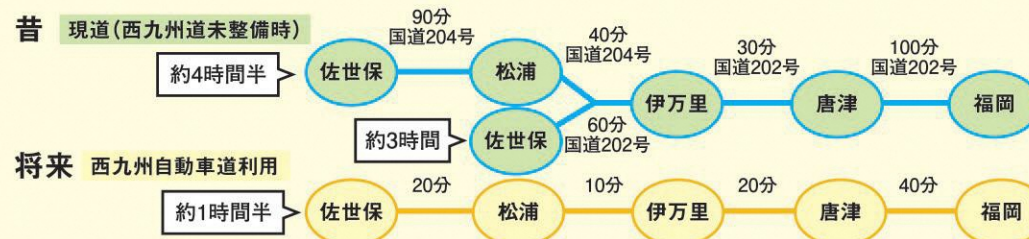
深浦弘信 伊万里市長



瀬川光之 長崎県議会議長



西九州自動車道は福岡県、佐賀県、長崎県を結ぶ、延長約150kmの道路であり、全線開通することで、佐世保と福岡間の所要時間が約1時間半となります。



西九州自動車道建設促進大会 (東京大会)



各県の知事、副知事をはじめ沿線市町の多くの関係者で、西九州自動車道の早期完成にける地元の熱い思いを東京に伝えてきました。大会には、金子参議院予算委員長や北村内閣府特命担当大臣をはじめ多くの関係国会議員や国土交通省、NEXCO西日本の方々に参加いただきました。

▲がんばろう三唱(松浦市長)

重要物流道路が指定されました!

平常時、災害時を問わない安全かつ円滑な物流を確保するため、供用中の道路を対象として、重要物流道路が指定されました。

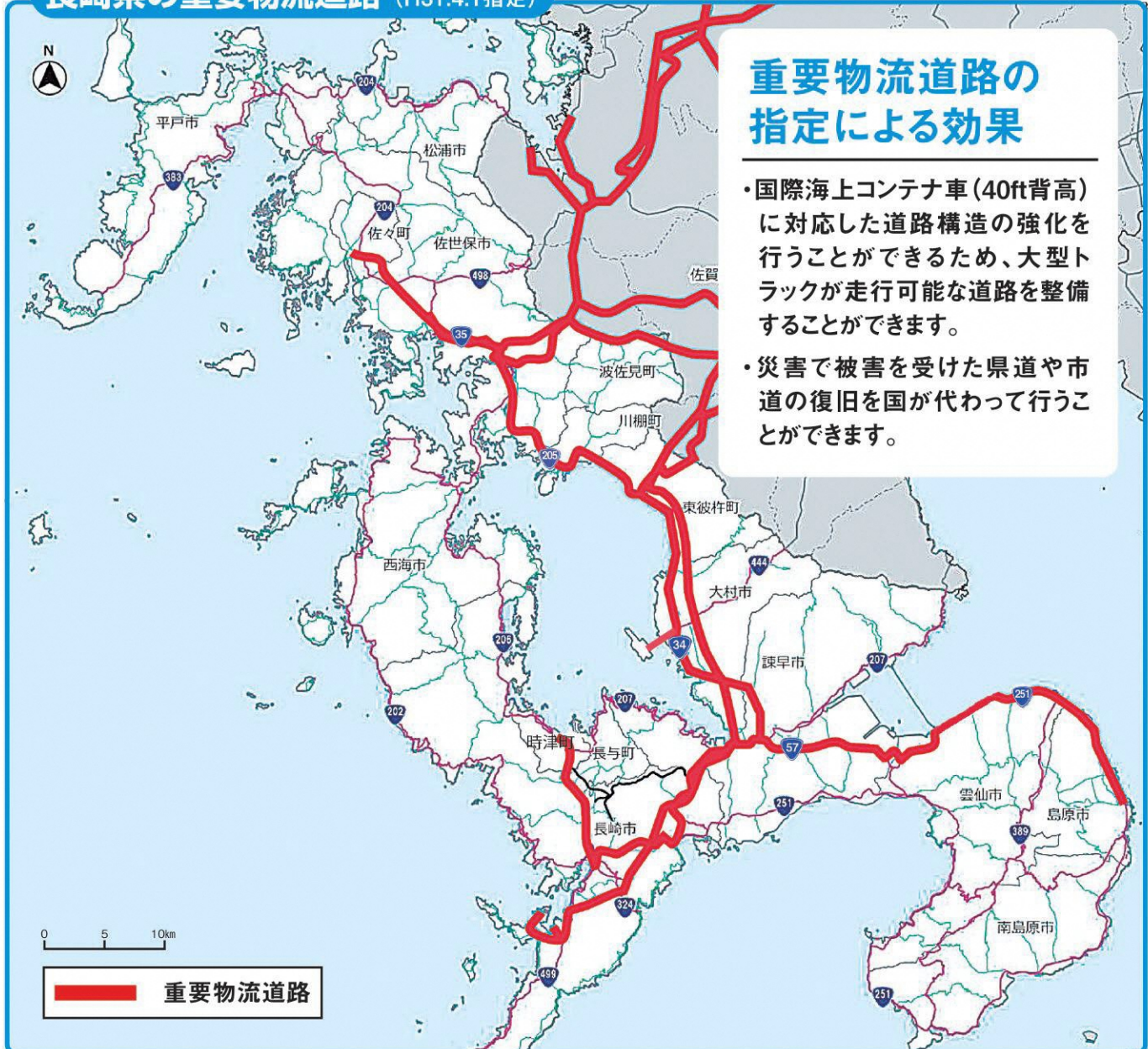
重要物流道路制度とは



- 近年、深刻なトラックドライバー不足の中、道路の通行に許可が必要な国際海上コンテナ車(40ft背高)の台数が増加しています。
- 平成28年に発生した熊本地震では、数多くの通行止めが発生し、物流が遮断されました。

平常時、災害時を問わない安全かつ円滑な物流の確保を目的として、**国が物流上重要な道路を「重要物流道路」として指定します。**

長崎県の重要物流道路 (H31.4.1指定)



行きたい!住みたい!長崎魅力百景フォトコンテストの募集案内

まちの美しい自然や四季折々の風景の写真を募集します!

★入賞作品は全部で21点!

【概要】

- 応募期間 令和元年9月27日(金) ~ 令和2年7月31日(金)
- 表彰 最優秀賞 賞金10万円

【募集作品テーマ】

あなたが「行きたい」「住みたい」と思う長崎県のまちの美しい自然や四季折々の風景

応募に関する詳しい情報は

行きたい!住みたい!長崎魅力百景フォトコンテスト

●お問い合わせ先 長崎県土木部都市政策課(TEL095-894-3031)

行きたい!住みたい!
長崎魅力百景
フォトコンテスト
Photo Contest

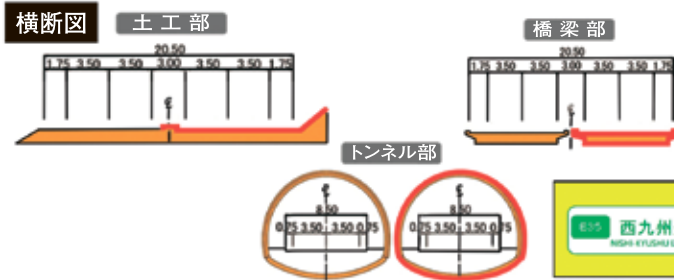
あなたが「行きたい」「住みたい」と思う、長崎県のまちの美しい自然や四季折々の風景
※応募は、プロ・アマを問いません!

応募期間 令和元年9月27日(金) ~ 令和2年7月31日(金)

最優秀賞 賞金10万円

主催：長崎県都市計画部

●E35 西九州自動車道 佐々IC～佐世保大塔IC間の4車線化工事に着手しました!



西九州自動車道 佐々IC～佐世保大塔IC間の4車線化事業について、これまで測量・設計等を主に実施していましたが、このたび「佐世保道路白岳工事」を発注し、本格的に4車線化の工事に着手しました。

工事に伴う交通規制や土運搬等車両の運行などが発生しますが、安全を最優先に事業を進めていきますので、ご理解、ご協力の程よろしく申し上げます。

【問い合わせ】
NEXCO西日本佐世保工事事務所
TEL0956-25-1511

拡うなるばい!! 西九州道
~佐々⇄佐世保大塔間4車線化~
From Saza to Sasebo-Ohtsuta, it will be extended to 4 lanes.

県内の土木・建築に関する情報を発信しています! <http://www.doboku.pref.nagasaki.jp/ichimannin/top.html>

「1万人、土木・建築体験プロジェクト」ホームページ

県内の土木・建築に関するイベント情報を発信しています。

facebookページ『よかばい!長崎の土木』

1万人 土木

よかばい 土木



「DOVOC通信ながさき」では、読者の皆様からのご質問・ご感想をお待ちしています。

宛先◎〒850-8570 長崎県土木部建設企画課 ☎095-894-3021 FAX095-894-3461 ✉s08080@pref.nagasaki.lg.jp